

秋田県大仙市（国内 22 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 4 月 19 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は平野部に位置しており、周囲を水田及び雑木林に囲まれていた。
- ② 当該農場では調査時に独立したビニールハウス製の開放鶏舎 3 棟で採卵鶏を飼養しており、1 鶏舎はケージ飼い（発生鶏舎）、残り 2 鶏舎は平飼いであった。他に衛生管理区域内にウサギ舎 2 棟あった。
- ③ 農場周辺ではカラス等の野鳥が少数確認され、農場から 100m の距離にある池では、水鳥は確認されず、700m の沼ではカモ類 1 羽が確認された。なお、農場が位置する大仙市内では 4 月 19 日に回収された死亡ハシブトカラスの遺伝子検査で高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されている。

2 通報までの経緯

- ① 農場主によると、発生鶏舎における 4 月 18 日以前の 1 日あたりの死亡鶏は数羽で推移していたとのこと。
- ② 4 月 16 日に 3 羽発生鶏舎の入り口付近右列で固まって死亡が確認され、その翌日、当該死亡ケージ付近で数羽死亡が確認された。4 月 18 日に、さらに 3 羽同一箇所死亡が見られたことから、感染症を疑い家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人

- ① 農場主と専属飼養管理者の 2 名で農場の管理を行っていた。
- ② 基本的に飼養管理者が各鶏舎の飼養管理及び集卵作業を担当しているとのこと。飼養管理者が休みの際には農場主が代わりに作業を行う他、農場全体の見回りをする場合があるとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場出入口には消毒ゲート及び立ち入り禁止の標識はなく、農場周囲の林や隣接する道路と衛生管理区域の境界に柵等の物理的な障壁は設置されていなかった。
- ② 農場主によると、農場の出入口には石灰が散布されていたが、車両が農場に入る際は、その他の消毒は実施していなかったとのこと。
- ③ 農場主によると、飼養管理者及び農場主は当該農場から離れた自宅で作業着及び長靴に着替え、衛生管理区域に入る際に手袋を着用していた。この際、長靴、作業着の交換や手指消毒は実施していないとのこと。
- ④ 農場主によると、外来車両は農場出入口に散布された石灰帯を通行するが、入場後、農場専用の作業着や長靴への着替えは実施しておらず、手指消毒も実施していないとのこと。
- ⑤ 農場主によると、鶏舎に入る際は、石灰を入れた消毒槽に保管している鶏舎専用の長靴に履き替えていたが、鶏舎専用の作業着や手袋への交換は実施していなかったとのこと。
- ⑥ 発生鶏舎であるケージ飼い鶏舎ではオールイン・オールアウトは行っていないが、平飼い鶏舎ではオールイン・オールアウトは行っているとのこと。
- ⑦ 発生鶏舎を含めた 2 鶏舎には飼料タンクが備え付けられており、畜舎内に直接開口し、手動で給餌していたとのこと。開放鶏舎 1 鶏舎には別の開放鶏舎の飼料タンクから手押し車で飼料を運んでいたが、その際、手押し車の洗浄・消毒は行っていなかった。
- ⑧ 飼養鶏への給与水は井戸水を使用していた。

- ⑨ 農場主によると、鶏卵は系列の農場内に輸送し、一部については事務所内で手作業で洗浄・消毒し出荷しているとのこと。
- ⑩ 発生鶏舎の廃鶏は少羽数ずつ食鳥処理施設で処理し、自農場内の加工施設で鶏肉製品に加工していた。
- ⑪ 農場主によると、鶏糞は、オールアウト時に重機を用いて鶏舎から搬出し、敷地内の露天の堆肥場に集積後、近隣の農家へ配布しているとのこと。堆肥場に防鳥ネットは設置されていなかった。
- ⑫ 農場主によると、死亡鶏は飼養管理時に回収し、保管せずにその日のうちに袋に入れて系列農場内に埋却しているとのこと。
- ⑬ 冬季は鶏舎の横方向のロールカーテンの開き具合で室温を調整しているとのこと。発生鶏舎では、4月に入ってから室温が上がってきたため、鶏舎のロールカーテンを開け、作業中は入り口のカーテンを開放していたとのこと。
- ⑭ 農場主によると、鶏舎出入口周囲の石灰散布を数か月に1回の頻度で実施しているとのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 農場主によると、鶏舎内でスズメ、カラス等の野鳥を見かけるほか、ネコ、キツネ、アライグマ、イタチによる獣害があったとのこと。調査時、発生鶏舎以外の鶏舎でネズミの死骸とネコを確認した。また、発生鶏舎では3月中にアライグマによる食害があったとのこと。
- ② 各鶏舎内でネズミの掘った巣穴やかじり跡が多数確認され、ネズミの糞も確認された。また、鶏舎壁面下方の金網やビニールの壁面に野生動物やネズミに齧られたと思われる穴が多数認められた。農場主によると頻繁にネズミがみられるとのこと。なお、農場内では殺鼠剤を設置していたが、効果が薄かったとのこと。
- ③ 壁面の開口部には防鳥ネットが設置されていたが、破損や隙間が多数確認された。